

「住吉区地域福祉ビジョン」とは、区民の皆さん、地域で活動するさまざまな団体・企業、学校、公的機関などが、住吉区の理想の未来、そしてそれを実現するための理念や目標などを共有するものです。

これまで、住吉区は、基本理念「高齢者・障がい者・子ども等誰もが心地よく暮らせるまち」を掲げ、みんなで話しあい、ともに実践していくことで、誰もが自分らしく生きることができ、自分たちが住むまちがこうなってほしいという希望を形にしていく、「増進型の地域福祉」を推進してきました。

さらに、地域での見守りや支えあいの活動、住みよいまちづくりの取組み、地域・子ども食堂などの居場所づくり、社会福祉法人による社会貢献活動など、さまざまな取組みがさかんに行われており、大きな強みとなっています。

その一方で、社会構造の変化や新型コロナウイルス感染症などにより、人と人、人と地域との「つながり」が弱くなりました。また、孤立に苦しむ人が増え、地域のさまざまな活動の「担い手」不足も課題となっています。

こうした状況の今こそ、支えあいの力で誰もが自分らしく生き生きと地域の中で暮らすことができる、新しいしあわせ（Wellbeing）の実現が求められています。それが「地域共生社会」と呼ばれるものであり、この取組みの可能性は無限に広がっています。

そして、皆さんと一緒に希望にあふれた地域づくりに取り組んでいきましょう。



基本理念の考え方

① みんなの夢や知恵を形にして、一人ひとりがかがやけるまちづくり（体験・経験から参加・参画へ）

このまちで働き暮らすさまざまな人々が集まって大きな夢を語りあい知恵を出しあいながら、その夢や知恵を形にするプロセスを積み重ねることで、一人ひとりがかがやけるまちづくりが実現できると考えます。

② ちがいを力に、自分の意見・自分で決めるを大切に（人権尊重・自己決定権）

人は一人ひとりみんなちがいます。そのちがいこそが、新しいものを生み出す力になります。ですから、人はそのままかけがえのない存在です。そしてなにより大切なことは、誰もが自分の意見を言える、自分で決める権利があるということなのです。

③ 誰もひとりぼっちにしない（社会的包摂（ソーシャルインクルージョン））

生きづらさや孤立に苦しむ人も、自分を気にかけてくれる人がいれば、ひとりぼっちではありません。身近な人が気にかけてあい、誰もひとりぼっちにしないことが、全ての人を包み込み、力づけるのです。

ゆるやかなつながりで、このまちの希望を形に、一人ひとりがかがやこう

人との「つながり」の中で人はしあわせを感じます。そして、元気づけられ健康にもなります。その一方で、「強いつながり」が苦手な人もいます。

そのため、今求められるのは「ゆるやかなつながり」です。

この「ゆるやかなつながり」づくりは、普段の暮らしの中で、誰でもいつでも、自分の関心のあるところから始めればよいのです。その形も自由です。

少しずつ「ゆるやかなつながり」ができれば、安心感が生まれます。それが広がることで、生きづらさや孤立に苦しむ人々に気づいて、気にかけることもできるでしょう。そうした小さな支えあいが、災害時には大きな力になるのです。

「ゆるやかなつながり」はみんなで作り出すしあわせのセーフティネットであり、このまちの希望を形にすることで、一人ひとりがかがやく場所になるのです。

私たちは、住吉区の強みを生かし、希望の未来へ願いをこめて、上記のとおり基本理念を掲げます。



基本目標

基本目標1

ちがいとつながりを力にして、一人ひとりがかがやけるまちづくり

- ① 自分と地域を重ねて、しあわせを考えられる住吉区に
- ② 地域のしあわせをいろいろな人と話しあえる住吉区に
- ③ 助け助けられ、お互いさまを実感できる住吉区に
- ④ 地域のしあわせ「今」「これから」がみんなに見える住吉区に

基本目標2

気になる人をまるごと、支えあい気にかけてあうしくみづくり

- ① すべての人が自分の意見を言える、それが大切にされる住吉区に
- ② たくさんの「気になるなあ」が支援につながる住吉区に
- ③ 「木も見る、森も見る」まるごとを話しあい、支援が進む住吉区に
- ④ それぞれができることから大きな力を生みだせる住吉区に